

06 | 樹木葬

大阪北摂霊園 2,000柱の樹木葬墓地を開園へ



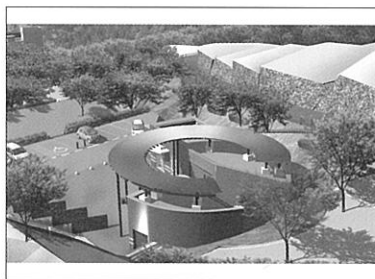
大阪府北部の山あい98万3,000㎡の地に1973年に開園した大阪北摂霊園（運営・公益財団法人大阪府都市整備推進センター）は、今春、樹木葬墓地「北摂の樹木葬 木もれびと星の里」を開園する。

霊園の正面入口にほど近い広さ6,500㎡の木立の地に、コナラやヤマモミジなど既存樹木約230本の根元に約2,000柱分の遺骨埋葬エリアを設けるもの。すでに植わっている樹木1本1本を墓標として利用する樹木墓標タイプのほか、森全体を墓地に見立てたエリアに埋葬する集合タイプ（1区画60×60cm）も用意する。

使用料は樹木墓標タイプが25万～120万円、集合タイプが15万～20万円、いずれのタイプも埋葬費用と山林管理費込み、オプションでネームプレートも追加できる。契約期間は2120年までの約100年間、その後は遺骨はそのままだに地域の森へと還っていく計画だ。

07 | 合葬墓

兵庫・芦屋市 市霊園内に合葬式墓地開設へ



兵庫県芦屋市は市霊園内の一角に、来たる7月の開設を目指して合葬式墓地の整備を進めている。

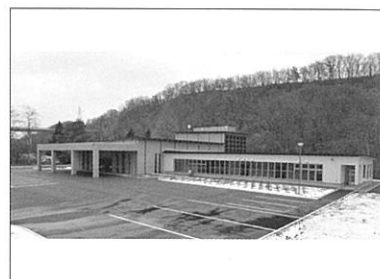
芦屋市では2016年、墓に関する市民アンケートを実施。そのなかで、「合葬式墓地が必要である」と答えた市民が半数を超えるなど、承継者を必要としない新たな墓地ニーズが高まっていたことから、市では翌17年から整備を進めてきたものだ。

鉄筋コンクリート造地上1階・地下1階建ての施設で、延床面積約180㎡。地下に4,500柱分の遺骨が納められる合葬室を設け、1階は骨壺のまま10年間安置できる一時安置室（800柱分）となっている。

使用料は1柱につき10万～20万円、3万円で記名板（120×45mm）を掲示することもできる。総事業費は約2億7,400万円。

08 | 火葬場

北海道伊達市に 新広域火葬場が4月に供用開始



北海道中南部に位置する伊達市をはじめ1市3町による西胆振行政事務組合が整備する広域火葬場「伊達火葬場」が2021年4月に供用を開始する。

現火葬場は開設から約40年が経過し、老朽化と経年劣化が進んでいたことから、現火葬場南側の隣接地に整備するもの（現火葬場は新火葬場稼働後に解体）。平屋建て・延床面積1,310.32㎡の規模で、火葬炉3基、告別室1室、収骨室1室、告別式兼収骨室1室、待合室3室（各40人収容＋畳スペース）、そのほか多目的室、キッズスペースなども配置する。駐車場は乗用車20台、大型バス3台、車椅子用2台分などを確保した。

使用料は組合管内・管外の住民を問わず同一料金とし、13歳以上1体につき5万円、13歳未満1万円とする。整備事業費は、18～21年度の4年間で約8億8,200万円。